

富良野市文化芸術振興条例案について
(答申)

令和4年9月20日
富良野市文化芸術振興条例検討委員会

第1章 総則

1. 名称

「富良野市文化芸術基本条例」

→富良野市文化芸術振興条例案の策定として諮問を受けましたが、検討委員会の議論の中で、富良野市において文化の「振興」は充分行われていると結論付け、振興ではなく推進についての基本的な事項を定めるとの目的から、この名称としました。

2. 前文

条例の条項の前には、制定の背景・理由、富良野市の目指す姿等について言及した前文を置くこととしました。

【前文に込めた思い】

富良野の文化は、先人たちの時代より、自然に恵まれた美しい景観や自らの手や頭を使って様々なものを生み出してきた農村文化を背景として振興されてきたこと、またそのことは、ドラマ「北の国から」のテーマともリンクし多くの人々に影響を与え、富良野が誇る「演劇文化」の誕生につながりました。

現在では、地域の伝統文化に加え新たな価値観による文化芸術が誕生していますが、演劇に限らず全ての文化芸術には、子どもの心を豊かに育み、まちを豊かに育てていく力があります。その多様な価値観を包含した文化芸術の力を将来にわたり、「まち育て」の大きな原動力とするための基本的な考え方として「富良野市文化芸術基本条例」を制定します。

3. 目的

富良野市が文化芸術に関する施策の推進により目指すのは、市民の創造性や豊かな感性を育むことで、文化芸術の力を持続可能なまちづくりに繋げていくことと考えます。

4. 基本理念

市民の創造性や豊かな感性を育むことで、文化芸術の力を持続可能なまちづくりに繋げていくことを基本的な理念として整理しました。

5. 市の責務

市の責務としては、基本理念にのっとり文化芸術の推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施するほか、文化芸術の力を教育やまちづくりに生かすため、「様々な分野との連携」「必要な財政上の措置」「市民の意見を広く聴くこと」を明記しました。

6. 市民の権利及び役割

市民に対しては、個々人の自由な意思を前提に、自主的かつ主体的な文化芸術活動を行うとともに、他の市民等とも交流や相互理解を深め、文化芸術を発展させる役割を担うよう努めることに理解を求めます。

7. 文化芸術団体及び事業者の役割

文化芸術団体には地域社会の一員として、自主的かつ創造的な活動を一層促進し、地域の文化芸術活動の活性化に努めることに理解を求めます。また、事業者に対しては、従業員の福利厚生活動の一環としての文化芸術の活用や、メセナ活動等、事業者それぞれが、自身の事業活動を通じて文化芸術活動を支援することについて理解を求めます。

第2章 文化芸術の推進等に関する基本的な施策

8. 多様な文化の尊重と推進

市民等が行う多様な価値観による文化芸術を推進するため、触れる機会・発信する機会・交流を図る機会と環境の整備が必要と考えます。

9. 人材育成

現状では、様々な価値観による文化芸術活動が行われるようになってきていますが、市民の文化芸術活動の推進を援助したり、文化芸術と市民をつなぐ人材が不足しています。また、高齢化等により担い手の減少が進んでいます。そのため、担い手の確保を支援する施策や文化芸術を繋げる専門的な人材（文化コーディネーター）の育成と配置が必要と考えます。

9. 子どもたちのための文化活動の充実

富良野市の未来を担う子どもたちの「豊かな感性」や「そうぞう力」を育むために、文化芸術の力は大きな役割を担います。家庭や学校等との連携により、子どもたちが文化芸術に親しむ機会を充実する取り組みが必要と考えます。

10. 文化の交流並びに観光分野との連携

文化芸術の推進のために、携わる者同士・地域間での交流は欠かせません。そのための機会や情報の提供が必要です。また、富良野の強みである観光分野と連携し、市民や富良野市を訪れる人と富良野市の持つ文化資源を結び付けることで、まちづくりに文化芸術の力を活かすことができると考えます。

11. 自然との共生・共存

富良野市の文化芸術が振興・発展してきた源は豊かな自然・美しい景観です。その環境の中から伝統文化が生まれ、時代を通過しながら新たな文化芸術の誕生につながってきました。このように自然と共生、共存した文化活動を推進するためにも、必要な施策を講じる必要があると考えます。

12. 食文化の発展・維持

先人たちの努力により獲得してきた豊かな田園は「富良野の文化」そのものと言えます。富良野には全国に誇る農作物があります。それを使った食文化や作物の育成過程に一層市民が親しみを持つことで、富良野市の多様な文化芸術の推進につながると考えます。

13. 市民の健康増進

スポーツには生きがいを高め、交流を深めることができる文化的な力があります。市民の幸福度を高めるためにもスポーツの持つ文化的な側面を推進していく必要があると考えます。

14. 演劇文化・芸術の推進

富良野の演劇文化は北の国からに端を発し、富良野演劇工場を中心にその文化を育ててきました。その成果の一部は、富良野高校演劇同好会が2年連続全道大会で最優秀賞を獲得したことで実を結び、まちの活性化につながっています。演劇には、表現力・創造力・コミュニケーション力を培う力があり、様々なもの同士を結び付けることができる特性があります。この「演劇文化」は富良野市の大きな特色であり、将来にわたり、まちづくりを進めていく上で重要な役割を担っています。今後も演劇の持つ特性をまちづくりに役立てていく必要があると考えます。

第3章 推進体制等

15. 計画の策定

文化芸術の推進に当たっては、施策を総合的かつ計画的に行う必要があります。そのためにも、基本計画策定が必要と感じます。

16. 推進体制の整備

上記の計画策定や変更、進捗管理また市民の声を広く計画に反映させるためには、文化芸術に対して知見を持った専門家・市民による組織の設置が必要と感じます。